

# 株式会社ステムセル研究所

## 事業計画及び成長可能性に関する事項

2024年 6月27日

# 会社概要

# stemcell

INSTITUTE

あたらしい命に、  
あたらしい医療の選択肢を。

うまれてくる命のために、そのご家族のために、

わたしたちができること。

それは、さい帯血をはじめ、

一生に一度きりの

命の財産をおあずかりすることです。

このうまれたての可能性が、

あたらしい医療の選択肢になる世の中へ。

これが、わたしたちステムセル研究所の願いです。



名称	株式会社ステムセル研究所 (英語名:StemCell Institute Inc.)
代表者	清水 崇文
設立日	1999年 8 月 5 日
資本金	7億480万円
事業内容	周産期の組織に由来する細胞の処理及び保管を行う「細胞バンク事業」及びそれらの細胞を用いた再生医療の研究開発
所在地	本社：東京都港区虎ノ門一丁目21-19 東急虎ノ門ビル 2 階 東京CPC：東京都港区新橋五丁目22-10 松岡田村町ビル 1 階 横浜CPC及び第一・第二細胞保管センター：神奈川県横浜市緑区白山一丁目18-2 ジャーマンインダストリーパーク 事業所：名古屋オフィス / 大阪オフィス / 福岡オフィス
社員数	社員：98名(男性:38名 女性:60名) 非常勤(契約社員・パート)：101名(男性 9 名 女性92名) ※2024年 3 月末時点
主要株主	株式会社トリムメディカルホールディングス(72.1%) ※(株)日本トリム(東証プライム:6788)が(株)トリムメディカルホールディングスの株式(100%)を保有
株主名簿管理人	東京証券代行株式会社
主要取引銀行	株式会社三菱UFJ銀行
主幹事証券会社	野村証券株式会社
監査法人	有限責任あずさ監査法人



代表取締役社長	清水 崇文
取締役(社外)	山田 智男
取締役(社外)	安藤 公秀(独立役員)
取締役(社外)	大久保 由美(独立役員)
常勤監査役(社外)	長江 賢(独立役員)
監査役(社外)	藤川 義人
監査役(社外)	森澤 夕子
執行役員	土山 寛史(営業本部長)
執行役員	石井 衛(細胞技術本部 Processing Division 本部長)
執行役員	佐藤 英明(細胞技術本部 Management Division 本部長)
執行役員	谷 勝弘(管理本部長)
顧問(医療)	関 博之(埼玉医科大学 名誉教授)

2024年6月末時点

## コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

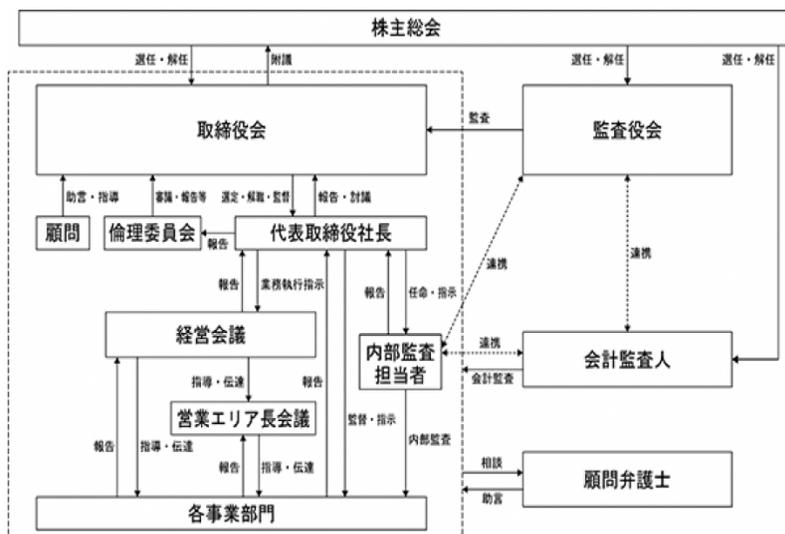
- 当社の「細胞バンク事業」はその性質上、一般社会、医療界よりの「持続的な信頼を得る事」が最も重要であり、そのためには、企業運営においても高い倫理観が求められます。さらに、株主の権利を重視し、持続的に企業価値の最大化を目指すと同時に、健全かつ透明性の高い組織運営を維持していくことが重要であると認識しております。その前提のもとで、コーポレート・ガバナンスの充実を重要な経営課題と認識し、経営管理体制の強化に努めております。

## 親会社からの独立性の確保について

- 当社の親会社である株式会社トリムメディカルホールディングスは、現在当社の議決権の72.1%を有する支配株主であります。また同社は株式会社日本トリムの完全子会社であることから、株式会社日本トリムも当社の親会社であります。かかる状況において、親会社と一般株主との間に利益相反リスクが存在していることに鑑み、親会社等のグループ会社との利益相反取引を含む関連当事者取引については、関連当事者取引管理規程に基づき、当該取引の経済合理性等を確認し、取締役会の承認を得ることとしており、取引の健全性及び適正性を確保する体制を構築しております。

## 執行役員制度

- 経営の意思決定・監督機能と業務執行機能との分離により経営効率化を推進し、権限を移譲することで業務執行上の意思決定の迅速化及び業務執行の効率化を図ることを目的に執行役員制度を導入しております。



### 取締役会

- 取締役4名（うち社外取締役3名）で構成
- 経営上の意思決定機関として、法令又は定款に定める事項の他、経営方針に関する重要事項を審議・決定するとともに、各取締役の業務執行の監督を行う

### 監査役会

- 常勤監査役1名及び非常勤監査役2名（うち社外監査役3名）で構成
- 監査計画に基づき重要な書類の閲覧、役職員への質問等を通じて、経営全般に関する監査を行う

### 経営会議

- 代表取締役、取締役、執行役員（各部門長）で構成
- 組織、運営、その他経営に関する重要な事項の審議を行い、取締役会への付議議案についての意思決定プロセスの明確化及び透明性の確保を行う

### 倫理委員会

- 会社委員及び外部委員による7名以内で構成
- 細胞バンク事業及び細胞治療研究に関連する倫理的諸事項について審議

### 営業エリア長会議

- 各営業拠点のエリア長により構成
- 営業目標の共有や営業活動の改善、営業の進捗状況についての情報共有を行う

### 内部監査担当者

- 当社は、独立した内部監査部門を設けております。内部監査担当者は、年度内部監査計画に基づき監査を実施し、監査結果については、内部監査担当者が内部監査報告書を作成し、代表取締役及び被監査部門の責任者に提出しております。

年月	概要
1999年 8月	東京都港区に株式会社ステムセル研究所設立
1999年 9月	当社初のさい帯血を保管
2002年 1月	近畿地区の拠点として大阪オフィスを開設
2002年11月	九州地区の拠点として福岡オフィスを開設
2003年 6月	東海地区の拠点として名古屋オフィスを開設
2004年 5月	検体数の増加に伴い本社並びに細胞処理センターを現在の本社所在地（東京都港区）に移転
2007年 5月	保管能力の増強を目的に細胞保管センターを神奈川県横浜市へ移設
2008年 3月	兵庫県神戸市において当社保管のさい帯血が、白血病の移植治療に利用される
2009年 4月	米国デューク大学で当社保管のさい帯血が脳神経疾患への再生医療に利用される
2011年 4月	東京都港区の細胞処理センターにて、ISO9001を取得
2013年 9月	株式会社日本トリム（東証一部）が当社株式の50.1%を取得
2016年 2月	東京都港区の細胞処理センターにて「再生医療等安全性確保法」に基づく、特定細胞加工物製造許可を取得
2016年 7月	品質管理向上のため、アメリカさい帯血協会（CBA）に加盟
2017年 4月	高知大学医学部附属病院が実施する「小児脳性麻痺等に対する再生医療提供計画」において、特定細胞加工物製造委託契約を締結
2017年 9月	厚生労働省健康局へ「臍帯血取扱事業の届出」を提出
2018年 9月	東京大学医科学研究所と「臍帯の臨床応用に向けた技術開発と保管体制構築」に関する共同研究を開始
2019年 7月	American Association of Blood Banks（AABB）認証取得

年月	概要
2020年 9月	東京大学医科学研究所及び東京大学医学部附属病院と自家さい帯由来細胞を用いた「周産期付属物由来細胞の臨床応用に向けた技術開発とバンキング体制構築」と「自家臍帯由来細胞を用いたティッシュエンジニアリングの研究開発」に関する共同研究契約を締結
2020年10月	高知大学医学部附属病院が実施する「小児脳性麻痺など脳障害に対する同胞間臍帯血単核球細胞輸血」および「小児脳性麻痺など脳障害に対する同胞間臍帯血有核細胞輸血」の臨床研究において、特定細胞加工物製造委託契約を締結
2020年10月	大阪大学大学院医学系研究科と他家細胞を用いた「臍帯組織由来幹細胞と半月板修復材を用いた新規半月板再生医療の開発研究」に関する共同研究契約を締結
2020年11月	大阪市立大学（現 大阪公立大学）を中心とする研究グループによる「低酸素性虚血性脳症（HIE）に対する自己臍帯血治療」の第Ⅱ相多施設共同臨床研究において、特定細胞加工物（自己臍帯血細胞調整液）の製造業務委託契約を締結
2020年11月	慶應義塾大学医学部と「ヒト羊水幹細胞による周産期脳障害の細胞治療」に関する共同研究契約を締結
2021年3月	「再生医療等安全性確保法」に基づく、特定細胞加工物製造許可を取得し、神奈川県横浜市に新細胞処理センター（横浜CPC）を開設
2021年4月	日本初となる「さい帯（へその緒）組織保管サービス」の提供を開始
2021年 6月	神奈川県横浜市に最新のIoT技術を採用した第二細胞保管センターを新設
2021年 6月	東京証券取引所マザーズ市場へ株式を上場
2021年 6月	保管能力の増強を目的に細胞保管センターを神奈川県横浜市緑区に新設
2021年 7月	一般社団法人 新経済連盟（新経連）に加盟
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所グロース市場へ移行
2022年 4月	大阪大学大学院医学系研究科に共同研究講座「運動器スポーツバイオメカニクス学講座」を開設
2023年 5月	事業拡大に伴う本社機能の拡充および業務の効率化を図るため、本社を移転
2023年 5月	事業拡大にともない、神奈川県横浜市緑区に横浜オフィスを開設
2023年 5月	大阪公立大学と「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」に関する研究者主導臨床研究契約を締結



# 事業内容

# さい帯血 = 「へその緒（さい帯）の中」を流れる血液

赤ちゃんとお母さんを結ぶ

「へその緒」や「胎盤」を流れている、出産時にのみ採取できる貴重な血液。

血液や神経などに分化する

「幹細胞」が豊富に含まれている。

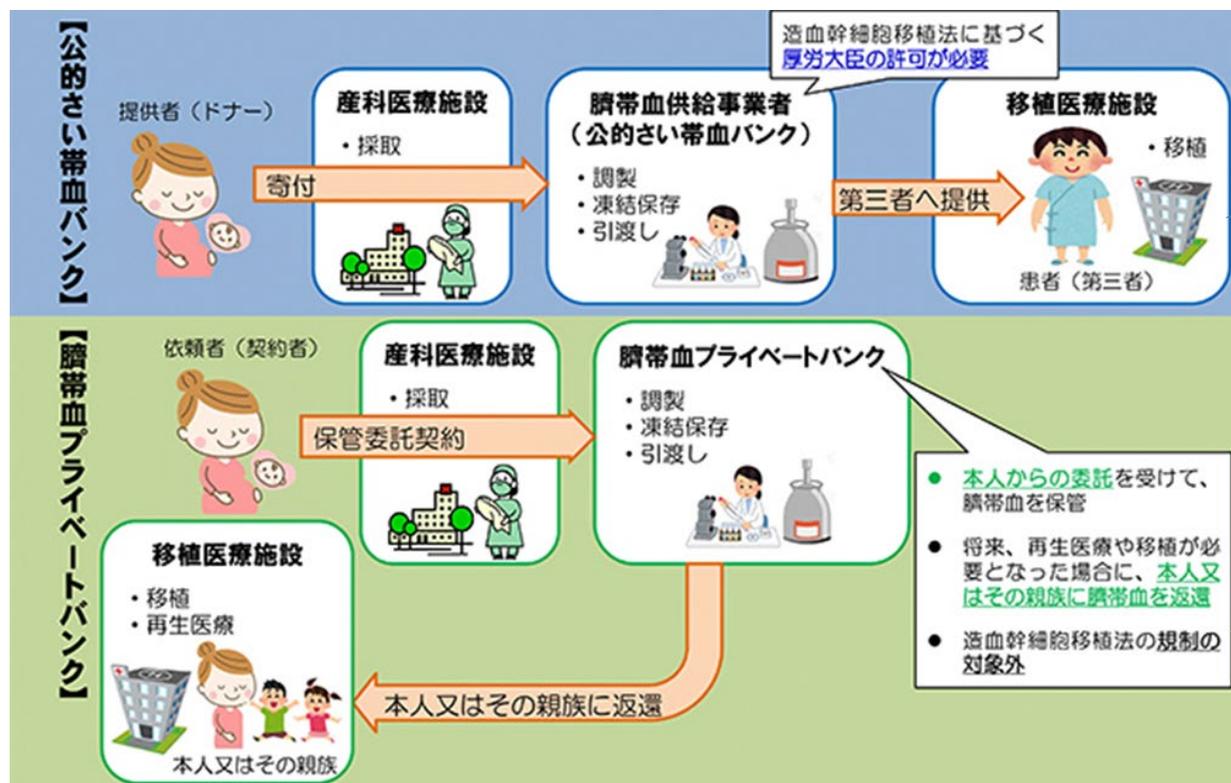


**再生医療・細胞治療での  
活用が期待されている**

## さい帯血から採取できる幹細胞の特徴

- ▶ 母子ともに痛みや危険を伴わずに採取可能（非侵襲性）
- ▶ 自分の体の中にある細胞（体性幹細胞）であるため、**ガン化のリスクも少ない。**
- ▶ 生まれたての未熟な幹細胞で、**外部環境による影響（遺伝子変異）が少ない。**
- ▶ 成人から採取できる幹細胞に比べ、**増殖性に優れている。**
- ▶ 通常は医療廃棄物となることから、**倫理的な問題が少ない。**
- ▶ 出生から小児までの間に再生医療を行う場合の**貴重な自家細胞ソース。**

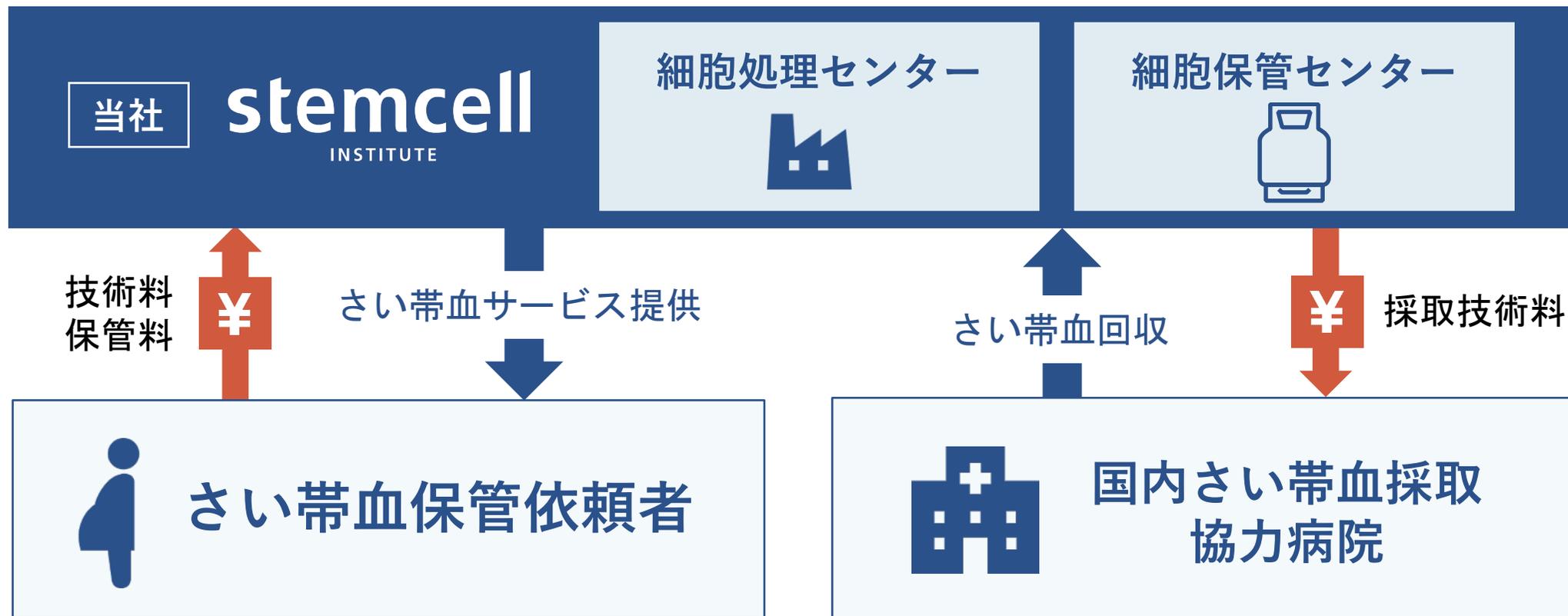
公的バンクは厚生労働省健康局の「移植に用いる造血幹細胞の適切な提供の推進に関する法律」に基づき、白血病を含む27種類の難治性血液疾患を対象に、第三者の治療に役立てるために寄付し、保管されております。民間バンクは厚生労働省医政局の「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」に基づき、脳性麻痺や自閉症スペクトラム症候群などを対象疾患とし、再生医療を目的に赤ちゃん自身やそのご家族のために保管されます。両者は違う法律のもと、それぞれが独立しており行き交うことはありません。また民間バンクは許可制ではなく、一方で、厚生労働省へ臍帯血取扱事業の届出が要請されており、年度ごとに保管検体数および廃棄検体数の報告が求められております（2023年3月31日現在、当社を含め2社）。



公的バンクでは、第三者の治療（白血病など）に役立てるために寄付し、保管されます

民間バンクは赤ちゃん自身やそのご家族の将来のために保管します

(厚生労働省Webサイト [https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/ishoku/saitaiketsu.html](https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/ishoku/saitaiketsu.html) より)



採取実績 **約2,000** 軒

(参考：全国の産科施設数 2,618軒※)

民間さい帯血バンクのパイオニアとして  
全国の産科施設へのネットワークを構築

## 契約時、技術料 + 保管料を一括で受け取る = キャッシュフロー・ポジティブ

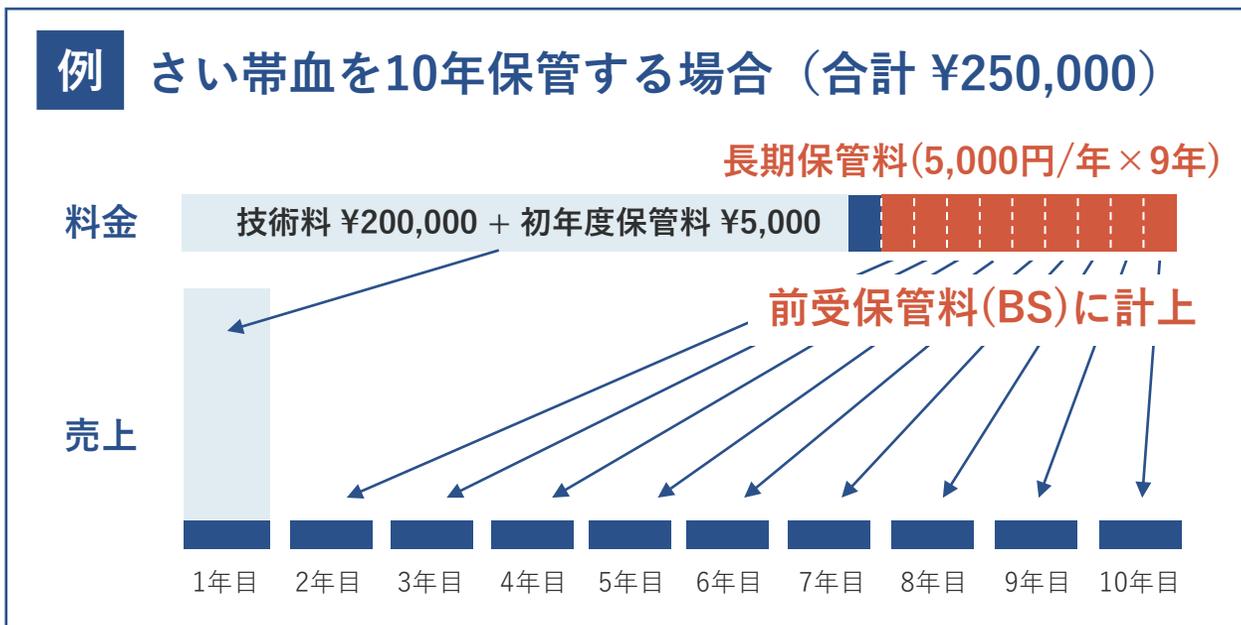
- ▶ 契約成立時の技術料 + 初年度保管料 = 当期P/L計上。
- ▶ 初年度を除く保管料(5,000円/年) = 「前受保管料(BS)」に計上。翌年以降毎年売上に振替。

### 契約料金 (金額は全て税別)

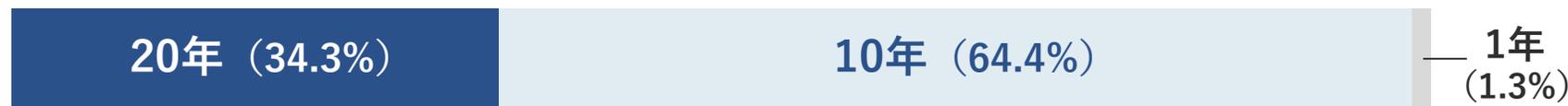


	技術料	保管料
さい帯血保管	200,000円	5,000円/年
さい帯保管	100,000円	5,000円/年

※契約期間は、1年、10年、20年から選択可能。



### 契約年数の割合 (2024年3月期)

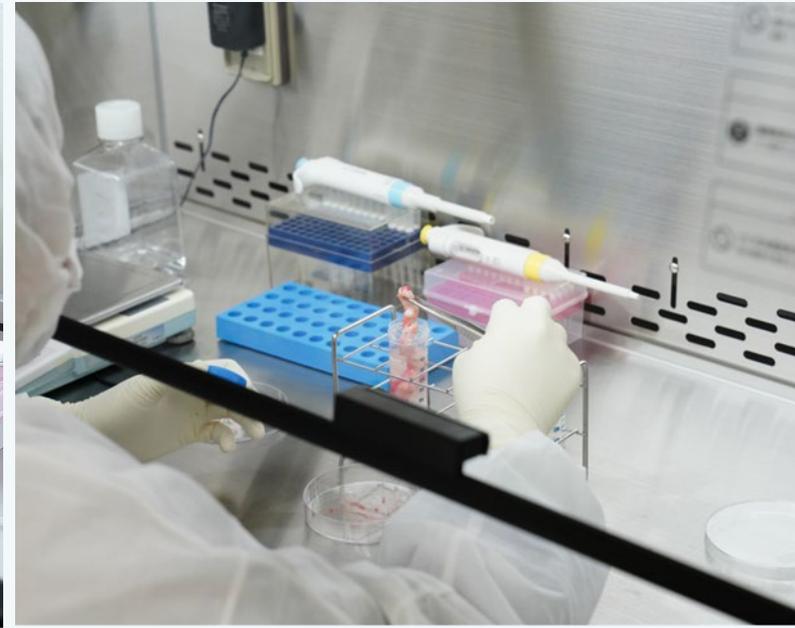
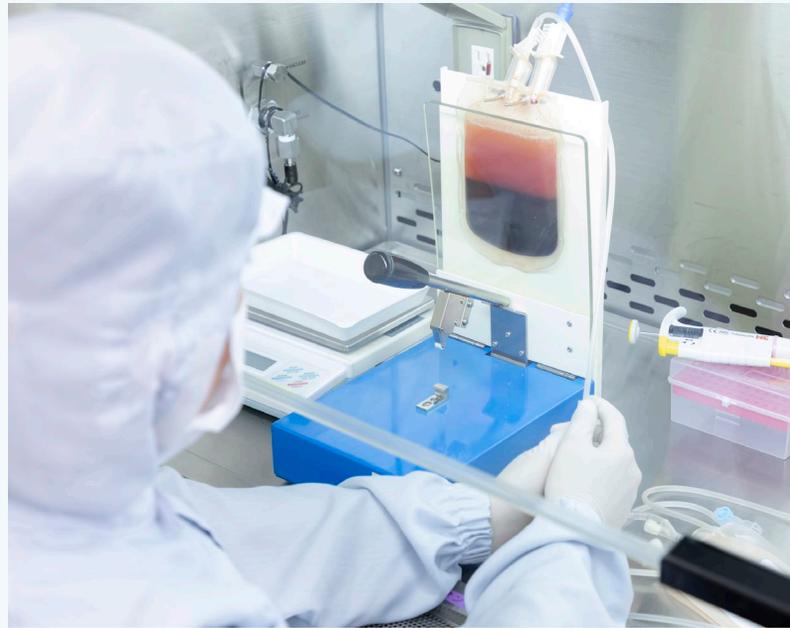


# 東京細胞処理センター / 横浜細胞処理センター

細胞処理能力 (東京・横浜CPC合計)

約2000件/月

IoTを活用した  
最先端のデータ管理システム



# 第一細胞保管センター / 第二細胞保管センター

検体保管能力(第一・第二センター合計)

約14万検体

さい帯血以外(さい帯、卵子等)の  
様々な細胞も保管可能



## 脳性麻痺等

高知大学医学部附属病院

実施内容	フェーズ	例数	ステータス
自家単核球細胞投与	I	6例	終了 (論文発表済)
同胞間単核球細胞投与	I	3例	募集中断 (被験者不在のため)
同胞間有核細胞投与	I	5例	被験者募集中

## 低酸素性虚血性脳症

大阪公立大学医学部附属病院他

フェーズ	例数	ステータス
I	6例	終了(論文発表済)
II	15例	被験者募集中

※フェーズIでは、少数の被験者が参加し、安全性についての評価が行われています。

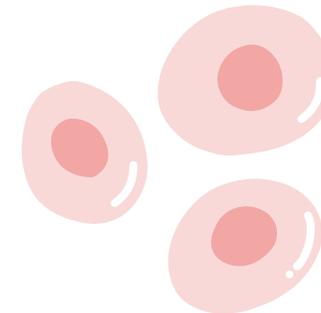
※フェーズIIは、臨床探索的研究として実施され、さい帯血の処理及び供給体制などを検討し、有効性と実施可能性を検証することを目的として行われています。

※症例数は変更される可能性があります。また、各臨床研究は研究者の方針、診療結果により、延期・中止となる可能性があります。

現在十分な治療がなく、  
QOLの低下に繋がる病気

↓  
さい帯血を投与

さい帯血に含まれる幹細胞が  
脳内の炎症を抑え免疫を調整し、  
細胞を活性化する因子を分泌することにより、  
**障害や損傷を修復**する。



大阪公立大学と共同プレスリリース

# 「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」 に関する研究者主導臨床研究契約の締結

自閉症スペクトラム障害（Autism Spectrum Disorder; ASD）は、発達障害のひとつであり、**100人に1人**の割合で発症していると言われていた。現在、**ASDに対する有効な原因療法は確立されていない**

当社に**自身の臍帯血（自家臍帯血有核細胞）**が保管されている**ASDの小児**を対象に臨床研究を行う

※再生医療等提供計画が作成され、審査委員会にて継続審議中

Press Release



各位

2023年6月5日

株式会社ステムセル研究所  
公立大学法人大阪 大阪公立大学

「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」に関する研究者主導臨床研究契約の締結について

公立大学法人大阪 大阪公立大学（大阪府、学長：辰巳砂 昌弘）と株式会社ステムセル研究所（東京都、代表取締役社長：清水 崇文）は、研究者主導臨床研究契約を締結し、大阪公立大学大学院医学研究科発達小児医学 濱崎 考史教授を実施責任者として、研究課題名「自閉症スペクトラム障害に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発」を実施することをお知らせいたします。

# 日本初のさい帯保管サービスを開始

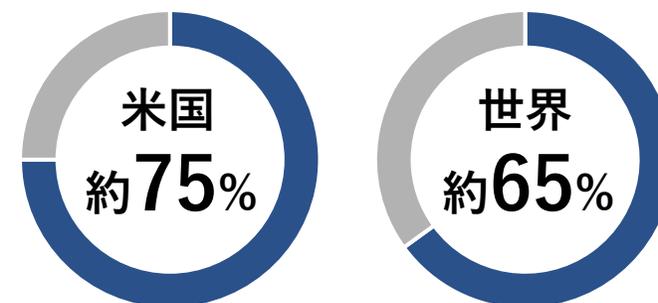
さい帯血保管のオプション契約として、  
2021年4月より **日本初のさい帯保管サービス**を開始

- ▶ 2018年より東京大学医科学研究所附属病院臍帯血・臍帯バンクと共同研究を実施
- ▶ 2021年3月19日付けで東京大学とさい帯組織保管サービスに関するライセンス契約を締結

## サービス利用率

現在、さい帯血保管サービス契約者の  
約**50%**がさい帯採取も選択

### さい帯保管サービス提供率



さい帯血バンクでさい保管サービスも提供している割合

# さい帯 = 「へその緒」

## さい帯（臍帯）

さい帯血とは  
異なる種類の幹細胞  
（間葉系細胞）  
が含まれている。



さい帯血・さい帯の両方を  
保管しておくことで、  
将来の利用に向けた  
選択肢が広がる

## 間葉系細胞の特徴

- ▶ 免疫調整、抗炎症、組織修復作用を有し  
**再生医療の分野**において  
国内外で活発に研究が進められている。
- ▶ 治療が試みられている病気は、**神経性疾患、  
呼吸器疾患、移植後の合併症の抑制**など多岐にわたる。
- ▶ 他家のさい帯組織由来間葉系細胞を用いた臨床研究は  
数多く報告されており、  
**海外では1099例、国内では36例**ある。

(海外) ClinicalTrials.gov

(国内) JRCT(臨床研究実施計画・研究概要公開システム)

## リアルチャネル (母親学級スピーチ)

協力産科施設で開催される母親学級※においてさい帯血保管サービスを紹介

※ 出産の情報 (授乳等) について施設側からレクチャーするクラス。



総出生数に対するアプローチ率  
4.9%程度

年間  
3.5万人

(平均開催数430回/月、平均参加者数7人/回)  
※2024/03期

▶ コロナ5類移行を機にリアル活動の再起動



## 非接触型 施設マーケティング

- ▶ デジタルサイネージやQRチラシ等 (2020/10より開始)

## デジタルマーケティング

- ▶ SEO対策強化 (2020/11より開始)
- ▶ Web広告配信 (2020/06より開始)

Google、Yahoo、Instagram、LINEといった複数の媒体で広告配信を行い、多方面から資料請求コンバージョンを獲得

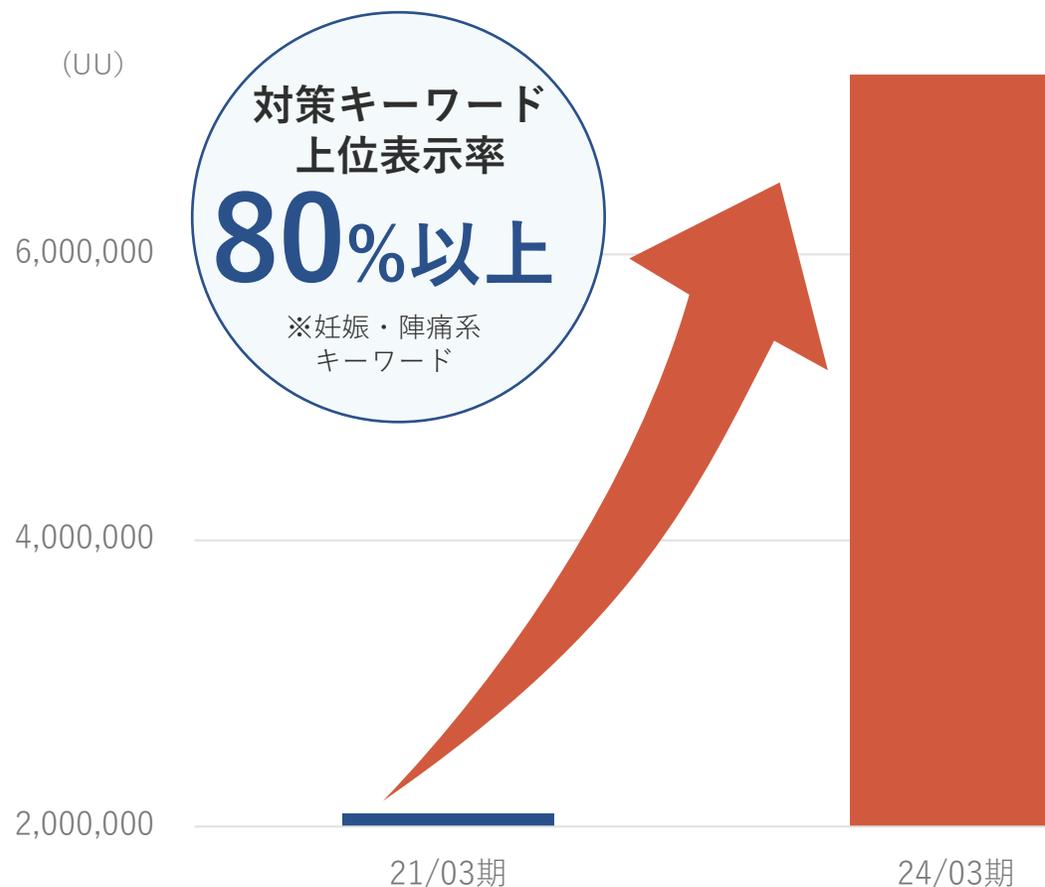
### ▶ SNS運用

Instagramにて、公式アカウントの運用開始。投稿やストーリーのほか、インスタライブにて妊婦向けの情報を発信。

(2020/11より開始)



## HPアクセス数



(単位：百万円)

	2023/03期	構成比	2024/03期※	構成比	対前期 増加額	対前期 増減率
売上高	2,091	100.0%	<b>2,481</b>	<b>100.0%</b>	389	18.6%
売上総利益	1,335	63.9%	<b>1,575</b>	<b>63.5%</b>	240	18.0%
販売費及び 一般管理費	1,038	49.6%	<b>1,162</b>	<b>46.8%</b>	123	11.9%
営業利益	297	14.2%	<b>413</b>	<b>16.7%</b>	116	39.1%
営業外収益	2	0.1%	<b>8</b>	<b>0.3%</b>	5	190.8%
営業外費用	—	—	<b>4</b>	<b>0.2%</b>	4	—
経常利益	300	14.4%	<b>417</b>	<b>16.8%</b>	116	38.9%
特別損益	-21	-1.0%	<b>24</b>	<b>1.0%</b>	45	—
当期純利益	198	9.5%	<b>310</b>	<b>12.5%</b>	112	57.0%

売上高・各利益

過去最高

売上高 (対前期比)

+ 18.6%

営業利益 (対前期比)

+ 39.1%

当期純利益 (対前期比)

+ 57.0%

(単位：百万円)

	2023/3/31	構成比	2024/3/31	構成比
現金及び預金	<b>3,324</b>	<b>57.2%</b>	<b>2,845</b>	<b>43.5%</b>
売掛金	1,140	19.6%	1,588	24.3%
投資その他の資産	593	10.2%	1,321	20.2%
資産合計	5,811	100.0%	6,543	100.0%
前受金	<b>3,095</b>	<b>53.3%</b>	<b>3,420</b>	<b>52.3%</b>
純資産合計	2,298	39.6%	2,692	41.2%
負債純資産合計	5,811	100.0%	6,543	100.0%

現預金 + 売掛金 +  
投資その他の資産

**合計 5,755**百万円

対前期比 **+ 696**百万円

投資その他の資産

(今期の主な増加要因)

1. (株)ジャパン・メディカル・カンパニーへの出資 (8月：1億円)
2. MUFG社債 (10月：1億円)
3. 長期預金 (12月：5億円)



# 市場概要と競合環境

## 日本のさい帯血の採取率は **1%**

- ▶ 法律などの社会的な基盤がなく、臨床研究が進めにくい環境だった。
- ▶ 産科施設でのリアルマーケティング重視。
- ▶ 他国では医療+美容目的でも利用。

他国(特にアジア地域)  
に比べて低い

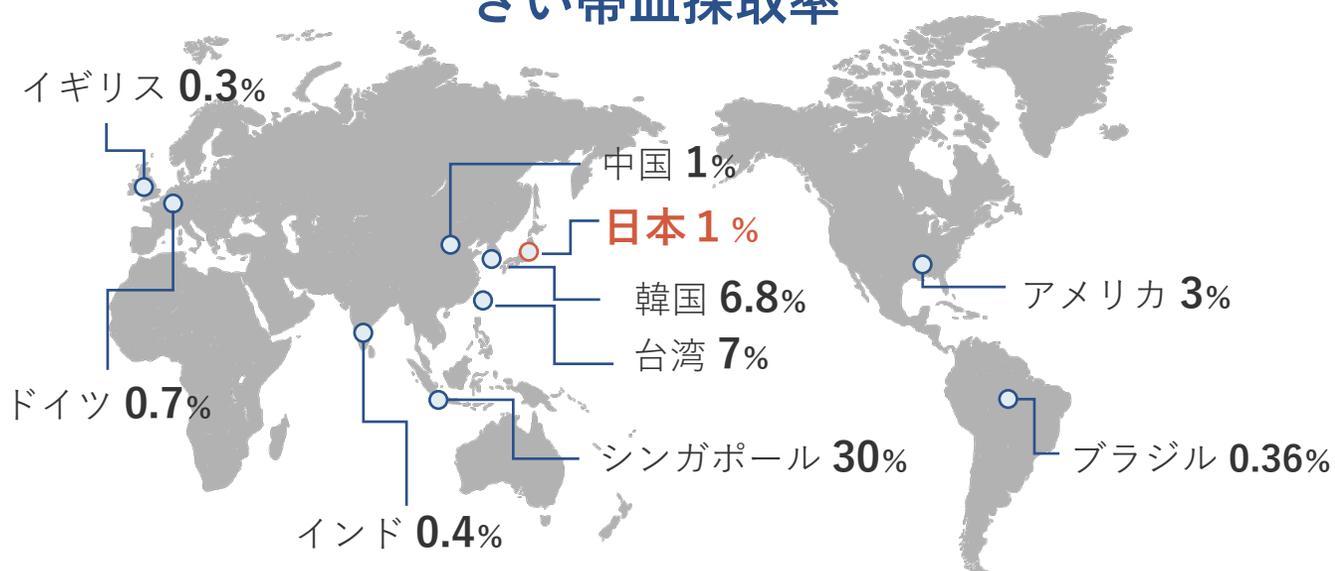
→ **市場拡大**

目標採取率

3 - 4年後 ..... **3%**

中期的 ..... **10%**

### さい帯血採取率



### 民間さい帯血バンク数 (社)

アメリカ	17	台湾	6
インド	11	イギリス	4
ブラジル	11	ドイツ	2
中国	10	シンガポール	2
韓国	8	日本	2

※Parents Guide to Cord Blood HP 「Percentage of births banking cord blood」 を基にステムセル研究所が作成。  
日本のみ2022年の採取率に更新。

# さい帯血新規保管数シェア **99.9%**

民間さい帯血バンクの累計保管数 **78,881**件

STEMセル研究所 **78,077**件

A社

- ▶ 民間さい帯血バンクは、厚生労働省へ「臍帯血取扱事業の届出」の提出を要請されており、2023年3月31日現在、同届出を行っている民間さい帯血バンクは当社を含め**2社**。

## 日本初の民間さい帯血バンク

	設立	累計保管数	新規保管数 (2022年度)
STEMセル研究所	1999年	78,077件 (99.0%)	7,981件 (99.9%)
A社	2004年	804件 (1.0%)	11件 (0.1%)

(2023年3月31日時点 各社提供の、「さい帯血プライベートバンクの業務内容等に関する届出及び報告に係る実施要領」に基づく「事業実績に関する報告」より)

# 事業計画

## 1 保管率向上のための施策

▶ さい帯血保管率 1 % を、2028/03期 3 %、そして 5 % へ。さい帯保管率は、さい帯血保管者の 50%

- ・国内での臨床研究推進および米国デューク大学「拡大アクセス制度(EAP)」を中心としたさい帯血投与機会の拡大
- 施策-
- ・提携クリニックでの培養上清治療と再生医療を提供
- ・保管細胞を利用した培養上清液（エクソソーム）を製造、当社だからこそできる独自のサービス

## 2 オンラインとリアルのマーケティングの相乗効果

- ▶ 成約率とブランディングを重視した施策を推進
- ▶ オンラインとリアルとのバランスを取り、利益率を最大化

## 4 業績・企業価値向上のためESGの取り組み強化

- ▶ S (Social)、G (Governance) を中心としたサステナビリティ経営

## 3 BSからの利益創出としての事業投資

- ▶ 投資先の株式売却益合計 159 百万円
- ▶ (株) ジャパン・メディカル・カンパニーへの出資
- ▶ 国内外で新たな投資、M&Aを検討中

## 5 グローバル展開

- ▶ シンガポール、台湾、インドネシアを中心としたアジアでの事業展開

-海外-	増加中	米国デューク大学「 <b>拡大アクセス制度(EAP)</b> 」への参加者
-国内-	進行中	小児脳性麻痺など <b>脳障害</b> に対する同胞間(きょうだい)臍帯血有核細胞輸血(高知大学)
	準備中	自閉症 <b>スペクトラム障害</b> に対する自家臍帯血有核細胞を用いた治療法の開発(大阪公立大学)

当社独自のサービス

サービス開始

2023年6月1日

# 「ファミリー上清 (さい帯由来幹細胞培養上清液)」

## 製造サービス



保管したさい帯の幹細胞を培養・増殖させて幹細胞培養上清液を製造、新たな有効活用により**さい帯保管者が増加**  
さい帯血のオプションプランとしてさい帯保管があるため、**相乗的にさい帯血保管も増える**スキーム

### ポイント

- 1 保管したお子様の「さい帯」から幹細胞培養上清液を製造  
**日本初、当社だからできるサービス**
- 2 **医療クリニック**において医師の裁量下で顧客のニーズに合わせて適切に投与
- 3 複数本に分けて保管したさい帯の一部を使用するため、**残りのさい帯は、将来に備えて保管継続が可能**

# 保管した細胞が再生医療以外でも希望に応じて利用できる時代へ



保管→製造→投与までシームレスに

保管した細胞を利用して、提携クリニックで  
気軽に治療を受けることが可能

## 提携クリニック

1. 神宮外苑Woman Life Clinic (東京都渋谷区)
2. 渋谷セントラルクリニック (東京都渋谷区)
3. メンズクララクリニック (東京都港区)
4. レディバードクリニック (大阪市北区)

利便性・実用性が高まることで  
保管率が向上





シンガポール 台湾 インドネシア を中心とした、

## アジア方面での事業展開

- 細胞バンクおよび提携クリニックのグローバル展開(含M&A)
- 海外から日本へ、医療・美容両面でのインバウンド事業とクリニック連携



インドネシアの  
年間出生数\*

約450万人

※United Nations, Department of Economic and Social Affairs 「World Population Prospects 2022」より

▶ ターゲット層：450万人 × 5% (富裕層) = **22.5** 万人  
(今後増加する見込み)

# 豊富な自己資金(投資可能額約50億円以上)と当社独自のネットワークにより 得られる情報をベースとした事業投資の拡大とM&Aの推進

2021年1月  
出資

不妊

## (株)グレイスグループ

卵子凍結保管サービスを提供  
東京都が「卵子凍結に係る費用への助成」を開始したことにより  
**知名度が大幅に向上**

資本業務  
提携



stemcell  
INSTITUTE

投資枠約50億円以上



2023年1月  
出資

妊婦さん等の  
女性向けサービス

## (株)ベビーカレンダー

女性向けサービス・事業の提供  
(証券コード:7363)  
マーケティングにおいて  
**相互のチャネルを活用**

資本業務  
提携

2024年～

医療

美容

## 海外ヘルスケア企業、細胞バンク等

シンガポール・台湾・インドネシアを中心とした  
アジア地域での**細胞バンク・ヘルスケア事業**・  
**クリニック展開**を検討中

資本業務  
提携

2023年8月  
出資

小児領域

## (株)ジャパン・メディカル・カンパニー

最先端の3Dプリンティング技術を用いて「赤ちゃんの頭のかたちのゆがみ」を矯正するヘルメットの開発、  
製造、販売(直近の売上高10億円以上) **上場申請予定**

資本業務  
提携

## Social (社会・人的資本投資)

E / S / G

### 働きやすい環境

- ▶ 本社移転、横浜細胞処理センター(横浜CPC)新オフィス開設  
事業拡大に伴う本社機能の拡充・業務の効率化、働きやすさの改善
- ▶ リモートワーク・時差出勤・育児期間中の時短勤務等

### 女性の活躍

- ▶ 従業員の女性比率 **75%**  
※契約社員・パート含む
- ▶ 女性管理職比率 **20%**
- ▶ 報酬総額の男女比率 **1 : 0.68**

### 出産・育児

- ▶ 育休後の復職率 **100%**
- ▶ 男性の育休取得率 **100%**

### 賃上げ(率)

- ▶ 2024年 **5%**

### 人材育成

- ▶ 新卒入社者研修・キャリア研修

### 健康と安全

- ▶ ストレスチェック・健康診断
- ▶ 勤務時間のモニタリング  
長時間労働の防止及び  
上長への通知・指導
- ▶ 有給休暇の取得促進
- ▶ 全従業員を対象とした  
インフルエンザ予防接種の補助

## Governance (ガバナンス)

E / S / G

### 多様性・経営監視強化

- ▶ 女性役員比率 **28%**  
女性役員2名を選任、今後さらに1名を選任検討中
- ▶ 社外役員比率 **85%**  
役員7名の内、社内役員は代表取締役の1名のみ  
で構成

## Environment (環境)

E / S / G

### 環境保全

- ▶ 本社移転による胡蝶蘭等の祝花を  
「フェイクグリーン」に
- ▶ オフィス全体での節電運動

# SDGsへの貢献を目的としたクラシックコンサートを開催

趣旨に賛同いただいた協賛企業の支援のもと、  
「NPO法人みなと子ども食堂」をご利用のお子さま方を  
無料でご招待し、健やかな成長や地域の支援に寄与。  
採取協力施設への謝礼や演奏家支援も兼ねたイベント。

## 実施内容



子ども食堂  
無料ご招待



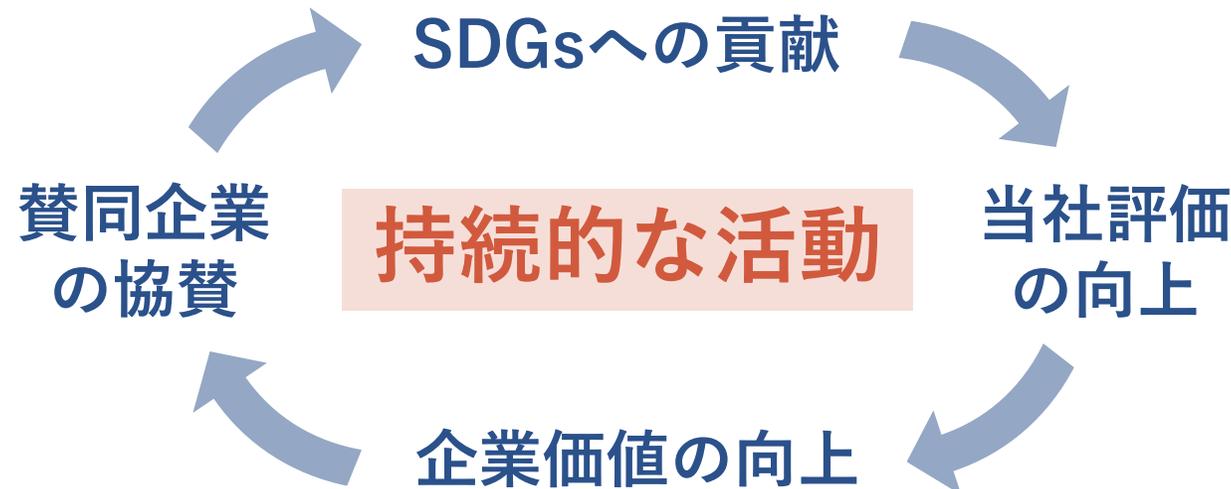
医療関係者  
無料ご招待



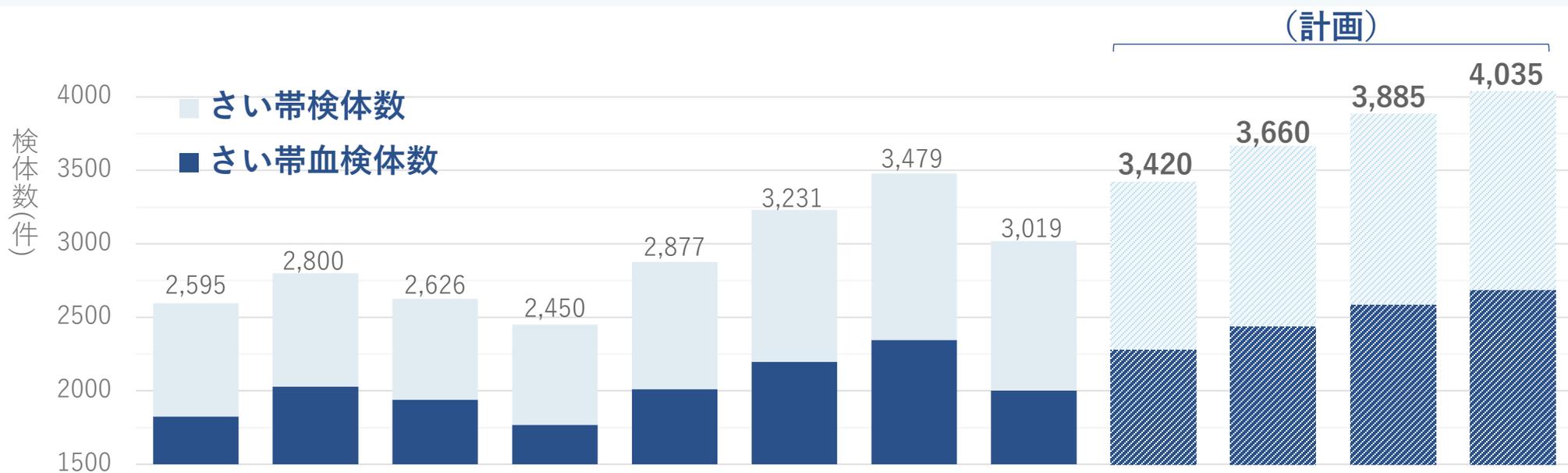
演奏家支援



## 企業価値向上のためのESG戦略



SDGsへの貢献に賛同する企業との  
ネットワークを構築・拡大することで  
サステナブルな活動が可能に



	2023/03期				培養上清製造 サービス開始	2024/03期				2025/03期				対前期比
	1Q	2Q	3Q	4Q		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
さい帯血 検体数(件)	1,825	2,030	1,940	1,769	2,011	2,198	2,347	2,003	<b>2,280</b>	<b>2,440</b>	<b>2,590</b>	<b>2,690</b>	<b>+16.8%</b>	
合計	7,564 (対前期比+9.5%)				合計	8,559 (対前期比+13.2%)				合計	<b>10,000</b>			
さい帯 検体数(件)	770	770	686	681	866	1,033	1,132	1,016	<b>1,140</b>	<b>1,220</b>	<b>1,295</b>	<b>1,345</b>	<b>+23.5%</b>	
合計	2,907 (対前期比+92.4%)				合計	4,047 (対前期比+39.2%)				合計	<b>5,000</b>			
さい帯血保管者の さい帯採取比率	42.2%	37.9%	35.4%	38.5%	43.1%	<b>47.0%</b>	48.2%	50.7%	<b>50.0%</b>	<b>50.0%</b>	<b>50.0%</b>	<b>50.0%</b>		

(単位：百万円)

	2024/03期 (実績)	構成比	2025/03期 (予想)	構成比	対前期 増加額	対前期 増減率
売上高	2,481	100.0%	<b>3,000</b>	<b>100.0%</b>	518	20.9%
営業利益	413	16.7%	<b>600</b>	<b>20.0%</b>	186	45.0%
経常利益	417	16.8%	<b>600</b>	<b>20.0%</b>	182	43.8%
特別損益	24	1.0%	<b>136</b>	<b>4.5%</b>	111	465.3%
当期純利益	310	12.5%	<b>500</b>	<b>16.7%</b>	189	60.8%
一株当たり 当期純利益(円)	30.35	—	<b>48.80</b>	—	18.45	60.8%

売上高・各利益

**過去最高**

売上高 (対前期比)

**+ 20.9%**

営業利益 (対前期比)

**+ 45.0%**

当期純利益 (対前期比)

**+ 60.8%**

# 事業リスク

主要なリスク	顕在化の可能性/ 時期	顕在化した 場合の影響度	リスク対応策
<p>「さい帯血」の再生医療分野での研究成果が想定通り進捗しない場合やその他の新たな治療法が出現した場合などは、当社の経営成績及び財政状態に重大な影響を及ぼし、事業継続が困難になる可能性があります。</p>	低/長期	大	<p>治療法が確立されていない疾患及び研究段階のものはまだ多数あり、それらを開発目標に設定し、アカデミアパートナーとともに臨床応用を目指します。</p>
<p>細胞バンク事業に係る法規制の改正・強化、新たな法規制が制定された場合、あるいはこれらの法規制を遵守できない場合、追加的な対応や事業への何らかの制約が生じることにより、当社の事業や業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>	低/不明	大	<p>関係官庁や学会の情報を注視し、また全社的な内部監査、細胞技術本部を対象としたISO9001に係る内部監査、プライベートマーク制度に係る内部監査を実施し、法的規制への適合性を定期的に確認しております。</p>
<p>細胞培養加工施設における「特定細胞加工物製造許可」の取消等があった場合には、主要な事業活動に支障をきたすとともに当社の業績及び財務状況に影響を及ぼす可能性があります。</p>	低/中長期	大	<p>構造設備基準への適合状況に関して、内部監査ISO9001に係る内部監査及びAABB査察（2年に1回）により、再生医療等安全確保法やAABBで求められる基準への不適合事項が無いかを定期的に確認しております。</p>
<p>細胞の分離・処理作業に必要な試薬や長期保管用タンクの冷却用液体窒素の供給が滞ったり、必要な設備が正常に稼動しないなど細胞の輸送、分離、保管の品質維持に支障を来した場合には、当社の事業や業績に影響を及ぼす可能性があります。</p>	低/中長期	大	<p>2021年3月に新たな細胞処理センターを横浜市に建設し、東京と横浜の2施設あることで、万が一どちらかに支障が生じても対応できます。またグローバル品質規格であるAABBやISO9001といった第三者の認証機関より査察を受け、品質や設備運用の維持向上に努めております。</p>

※その他のリスクは有価証券報告書の「事業等のリスク」をご参照ください

- 本資料は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらのリスクや不確実性には、業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済情勢が含まれております。
- 本資料の当社以外に関する情報は、一般的に公知と考えられるものに基づいております。
- 本資料は、いかなる有価証券の取得の勧誘行為を行うためのものではありません。

次回の「事業計画及び成長可能性に関する事項」の開示時期は、2025年6月を予定しております。